環境資源工学会の皆様へ
会長　前川 統一郎（79年卒）

昨年の総会では、新たな奨学金制度をご承認いただきありがとうございます。この新制度に基づき、平成24年度も低金利が続く中で2名の学生に各30万円の奨学金を支給することが出来ました。この奨学金制度の維持のため、今後とも環境資源工学会奨学金への寄付をよろしくお願いいたします。

さて、OB会員が主体となった環境資源工学会の改革も目に見えた結果が表れてきました。とくに、総会・懇親会の企画運営を総会幹事団方式としたことにより、会員の参加意識が高まり、会員相互の交流の場、会員と学科との交流の場である、総会・懇親会の活性化が進んでいます。また、若手会員の声が総会等の運営に反映されるようになり、その中から、斬新なアイデアも生まれてきています。さらに、学科との連携に関しては、来年度から環境資源工学会の寄附（提携）講座として、各界で活躍する卒業生のオムニバス形式による講義を行う準備も進めています。

今後とも会員相互の交流と親睦、会員と学科との連携を通じて、会員及び母校の発展に寄与するため、弛まぬ改革を続けて行きたいと思います。そのために今年の総会では、環境資源工学会の運営方法についての抜本的な改革案を皆さんに提案させていただきたいと思います。詳しくは総会案内に同封していますので、是非ご一読の上、忌憚の無いご意見を総会等にていただければと思います。

今年度の総会・懇親会では、幹事団の発案で、卒業生と学生との交流を大きなテーマとしております。卒業生同士だけでなく、学生、教員とも歓談し、情報交流を進める楽しく有意義な場としたいと考えておりますので、皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

総会、懇親会の開催に当たって
総会幹事団幹事長　中山智晴（83年卒）

本年度の環境資源工学会定例総会の幹事長を務めます、1983年秋原研卒の中山智晴と申します。幹事団を代表してご挨拶を申し上げます。

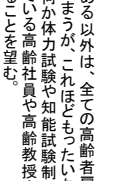
理事会メンバー、並びに、1983年、1993年、2003年、2013年卒から選出された幹事団で、6月27日(土)に開催される総会、懇親会の準備を進めています。卒業生は、並びに在校生にヒアリングした結果を踏まえ、今年度の総会は、東京工業大学大学院の山中浩明教授（1983年）より「物理探査学、地震学・耐震工学の間で学際研究を目指して」、東洋エンジニアリング株式会社の佐藤弘志常務執行役員（1979年）から「資源エネルギー開発とエンジニアリング」の2件の特別講演に加え、「世代間を超えた交流」をテーマに卒業生と在校生によるパネルディスカッション「資源OB・OG　私の履歴書」を企画しています。卒業生が在校生に伝えたいこと、在校生が卒業生に聞きたいことをパネルディスカッション形式で進行させていく予定です。

在校生においては、研究、就職を考えるにあたり、様々な分野で活躍する卒業生に対し、先輩であるからこそ本音で聞けることがあるでしょう。また、卒業生においては、在校生が何を考え、悩み、就職に対しどのような準備をしているのかなど、知りたいこと、伝えたいことが多々あります。

その後、懇親会においては、卒業生同士が飲み語り合うテーブルに加え業界ごとのテーブルを設け、学生が興味のある分野の先輩と話がし易い場を設定する予定です。

今回の総会および懇親会は、多くの卒業生、在校生の参加があって成立する試みです。同期、先輩や後輩にお声掛けくださり、賑やかに親睦を楽しむことができるとを期待しています。多くの方々のご参加、心よりお待ちしております。宜しくお願いいたします。

80歳現役時代を迎えて
森田信男



70歳になる前に、年金機構から手紙がしきりに来るようになった。私はアメリカに50歳になる前に生活しており、日本の年金をもらう現役である。20－65歳まで国民年金加入という必要条件を満たしていないので、年金をもらえるとは夢にも思わないで年金機構から手紙がきても無視し続けてきた。しかし手紙があまりにも来るときあけてみると外国で働いてきた人は総計で25年以上年金に加入していれば日本と外国の年金は働いた年月に比例してもらえるという。私の場合は65歳まで日本とアメリカで働いた年月は17年、17年と同じぐらいであるのでアメリカの分は50％、日本の分は50％ということになった。国家間で締結がなされていて、日本の年金も米国の年金も生涯年金は同じ程度で調整されている。ということで70歳の誕生日から年金は同じ程度で調整されているのである。年金の額の少ないこと。年金だけで生活しようとすると食べるのがやっとである。貯金がなければそれまでの給料生活と落差が激しい貧困生活となる。これから高齢者がますます増加する世の中、この程度の年金でも将来は年金システムが破綻して今の若者は定年65－70才の社会では年金は今の額の6割り程度で生活が困窮するのは明らかである。また日本のGDPも毎年殆ど向上していない。いくらがんばっても輸出より輸入が過剰で毎年国力は落ちる一方である。こうした社会では将来の生活を守るためには個人としては次の3つのことを実行する必要がある。

(A)女性は子供を2－3人早い時期に産み、その後長い間夫婦は共働きをする。

(B)毎月6－7％は給料からさしひき健全な分散投資信託にまわす。

(C)65－70歳を定年と想定せず、80歳現役時代を想定して、体力の保全を行なう。

一般に仕事にうく女性は仕事が故に出産を引き伸ばしがちである。しかし出産を引き伸ばすとかえって社会復帰が難しくなやすい。女性は若いと鶏が卵を産むように毎年産むことが出来る。しかも現在の社会は若い女性は優遇で、出産程度では会社を退職させる企業は少ない。出産の間、会社に休業をとっても回復が早いため仕事にすぐ復帰できる。私の見てきた女性では配偶者が手助けすれば、若く子供を作った家庭は、40歳以後精神的安定、仕事が安定で、かえって豊かな生活が出来ているようである。早稲田卒業生の女性にはぜひとも卒業後若く結婚して若く出産することを助言する。

アメリカでは大企業の殆どは3％給料から投資信託を行なう。3％程度マッチしてくれる制度がある。すなわちその6％が積み重なって30年後、40年後の退職金となる。また個人で30銘柄程度から選択できる仕組みになっているので若いときはリスクの高い信託に投資してリターンが高い。また企業倒産もそれほど困窮した時は自分の信託の財産から引き落とし可能である。アメリカでは自分の口座に利子とともに返却も可能である。アメリカでもしれないが、実際は優良企業の社員の7割は退職するまで、企業を変えないのが普通である。米国の投資信託は1940年から平均12．5％上昇しているのでリスクのない投資の為、途中で解雇されなかった会社員は一生最終給料と同じ程度の収入を投資信託から得ることになる。戦後間もない時代は世界のコミュニケーション、生産、流通が国際化していなかったので、日本人の猛烈な勤勉性で他国人の2人分ほどの効率で脅威的な復興を遂げてきた。しかし現代では全てが国際化しておりいくら独創性や勤勉性に優れていても後進国は追いついてくる。やはり投資と勤勉性の両輪で2人分の富を生み出す以外に日本の国力を維持する方法はない。

70歳になると日本ではどんな元気な人でも雇用しようと考える企業はあまりない。これはもったいない話である。10人に1人程度は高齢者は傲慢になって老害になる人を見かける。今の高齢者は結構謙虚で健全である。怠惰で自己中の若者のほうが私からみるとずっと大きな若害である。確かに70歳になると、すでに他界してしまった仲間も2割ぐらいいる。しかし元気な高齢者は本当に元気である。数学をやらせたって30や40才の企業の社員と全く引けをとらない。日本の社会では社長である以外は、全ての高齢者雇用を企業からシャットアウトしてしまうが、これほどもったいない話はない。日本の大学もあましている高齢社員や高齢教授を80歳程度まで登用する時代が来ることを望む。

早稲田大学の先生をみていると外から50歳すぎて教授になった先生は土曜も日曜もなく元気に働いている。それは今まで働いてきた環境と違ってリフレッシュして働いているからである。企業でやろうと思っていたことが自由に出来て、やっていくことが面白く仕事が趣味と同等になっている。しかし助手から上り詰めて30－40年も勤めている先生は60歳以上になるとマンネリ化で、半分はやく退職したいような顔をしている人が多い。誰だって同じ仕事を30－40年続けてくれば強く働く意欲を失うのは当然である。それを防ぐために早稲田大学では7－8年ごとに1年程度はサバティカル制度で外国の企業や外国の大学で働けるシステムになっているが、教員数が不足していてシステム的には制度が整っていても実行は無理となる。7－8年に一度は制度が、マンネリ化の弊害を防ぐために、企業との交換派遣はどうであろうか。企業では4－5年ごとに海外派遣、移転、出向を行い社内技術の交換、異なる社風の融合、マンネリ化の防止などを行なっている。環境資源工学科は工学部であるから、関連する研究所、企業・機構には、大学の先生と同等な技術・計算力・知識をもった人も多い。1－2年の研究所・企業・機構・外国大学からの交換人数は学生が就職する際それらの宣伝になり、また出向いた教授はそれらの機関に新風をおくるのでこの様な出向はそれらの機関は受諾するであろうと思われる。交換教授が研究室の指導を1－2年行なってもそれほど生徒が困惑することはない。これからは企業・機構・研究所・外国大学との短期人材交換などをとうして、サバティカルの実行できるエネ・環境を整えるべきである。そして大学も80歳現役時代が来ることを望む。

70歳まで生きてきて、これから日本が過去の繁栄まではいかなくても日本の指の中に数えられる国家の繁栄を保つためには上記に記したA、B、Cを卒業生にも現役の学生にも実行してもらいたく、私の退職のメッセージにしたい。

20年も大学にいると色々な事件があった。そのときは私もギリギリの判断で目を白黒させてなんとか乗りきってきたが今振りかえるとそれも楽しい思い出である。題して＊今振り返ると＊＊＊＊"という思い出を研究室のOBや学生に語ってもらう企画をしてみた。私の研究室ではJogmec・石油企業が学生アルバイト代、献金、コンサルティング料金等、色々な名目で経済支援してくれ、それをつみたてて学会参加の費用として使っており、とてもありがたく思っている。私としては国内・海外学会体験で彼らに脱内革命を期待してそれを行なっており、ジオロジートリップ、大学訪問、岩石収集もあわせてフィールド体験もあわせて行なっている。そんなときには私もギリギリの判断を迫られることがあったので、学生にそのいくつかを紹介していただいた。

森田教授退職にあたってOBの言葉
赤茶けた大地に潜む、大きなワナそして、生還
池田拓矢・高橋舜佑・村奥樹（14年卒）

私達が学部4年生の時、学会が開かれたのはオーストラリアのパースだった。今回は、地質学的知見を得るため、エアーズロックを回って帰ってくる事となった。その際の移動手段は車だ。パースからエアーズロックまで、オーストラリアの中心を横切る道、グレートセントラルロードを通って、20００km。20００km という半分ほどに位置するLeonoraという街から、エアーズロックまでの道のりである。ほんとになんにもない。街もない、人が住んでいるような雰囲気も、しかし、国道"だけはあった。便利なことにGoogle Mapにはスカイビュートレードというものがあって、衛星画像と地図を両方見ることができる。"道"も確認した。"道"はしっかりあった。だから、そのルートを通ることにした。

学会が終わり、車一台でエアーズロックに向かうことになった。車で待機が決まったその時、すでにみな疲労困憊であった。そんななか、先生はおもむろに今回起きた出来事に関する反省点を整理し始めた。大きく3つに分けると、1）ルートの選択（この道通る必要なかった）、2）スピード（路面状態に対して、スピードを出しすぎた）、3）なにらかの理由でこの路の交通を阻止しようとする悪いやつらがいた。であった。3つ目に関しては反省点とは言い切れないと感じたが、もう少し冷静にしたかった。その後更、日程変更を考慮すべきであったのだ。外では野犬の遠吠えが聞こえるわ、ラクダがいつ車を踏んづけるかわからないわで、一睡もできなかった。朝日が差し込んでいた。他のメンバーが外でボールを投げ合って遊んでいる暢気な連中もいたが、私は寒すぎて体が動かなかった。先生にはこんなに寒くすぎて何も考えることができなかった。はやく、助けにきてくれ。はやく、シャワー浴びたい・・・と10回ぐらい思ったところで、助けに来たレッカー車がやってきた。その車は世界のTOYOTAだった。

～待機組～

車で待機が決まったその時、すでにみな疲労困憊であった。そんななか、先生はおもむろに今回起きた出来事に関する反省点を整理し始めた。大きく3つに分けると、1）ルートの選択（この道通る必要なかった）、2）スピード（路面状態に対して、スピードを出しすぎた）、3）なにらかの理由でこの路の交通を阻止しようとする悪いやつらがいた。であった。3つ目に関しては反省点とは言い切れないと感じたが、もう少し冷静にしたかった。その後更、日程変更を考慮すべきであったのだ。外では野犬の遠吠えが聞こえるわ、ラクダがいつ車を踏んづけるかわからないわで、一睡もできなかった。朝日が差し込んでいた。他のメンバーが外でボールを投げ合って遊んでいる暢気な連中もいたが、私は寒すぎて体が動かなかった。先生にはこんなに寒くすぎて何も考えることができなかった。はやく、助けにきてくれ。はやく、シャワー浴びたい・・・と10回ぐらい思ったところで、助けに来たレッカー車がやってきた。その車は世界のTOYOTAだった。

～救出組～

救出隊のメンバーは、「この車がパンクしたから全てが終わる」という危機感とともに、エアーズロックのある街へと向かっていた。無事到着したものの、時刻は深夜2時。到着予定時刻はとっくに過ぎていた。早い時刻に返るリゾート地の中で、ぼつんと明りの付いた受付の人はGary Lapと呼ばれた素振りだったが事務所の中に私達を迎え入れ、快く手伝ってくれた。そこで、修理業者を調べあげ、部屋に案内され、電話を掛けてくれた。時間は真夜中、車はオフロードの真ん中とあって、業者がレッカー車をなかなか現場へと行かせようとしない様子が、側で電話を聞いているだけでもありありと伝わってきた。が、先輩は根気強く交渉を続け、30分ほどしてやっと話がまとまった。不安に思う我々をよそに、堂々とした先輩の態度は、とても、頼りがいがあった。その場にいた全員が恋に落ちたと言っても、過言ではないだろう。時刻は4時を回っていたがそのまま朝を待ち、先輩と私はレッカー車に同乗し、現場へと向かった。朝日に照らされた美しいスカイビュートレードを横目に、元来た道を辿っていく。そして、赤茶けた大地にポツンと、友人たちの待つ車を発見した。心の中ではアルマゲドンのテーマソングが流れていた。

Leonoraまでの道のりはいたって順調で、時折あるカンガルーの死体さえ目に入らなければ、日本の高速道路と同じような道のりであった。

その日はLeonoraで宿泊し、次の日、寂れた街を朝早く出発した。その日の朝日は最高だった。Leonoraの街を出発し、程なく例の"道"の入り口が近づいてきた。そして"道"に入った瞬間全員が、地図上の"道"ことグレートセントラルロードのGreatな理由に気づいた。なんと、舗装されていなかったのだ。広がるのは見渡す限りの砂漠地帯だった。砂にハンドルを取られる上に、前を往く車が巻き上げる砂ガタガタガタとやっとのことで前へと進んだ。延々と同じ風景が続くなか、道を横切るラクダやカンガルーに時折足止めされ、またあるいはアボリジニの集落に迷い込み、さらには山火事で火の海となった森林地帯に迷い込んだ。外部に連絡しようにも、携帯はつながらない。学生たちがパニックにかけつけるなか、森田先生は冷静に言った。スペアのタイヤがあるはずだから交換しよう。荷台の底から換えのタイヤを取り出し、携帯のライトで照らしながら、私は皆と生まれて初めてのタイヤ交換を行なった。荷台とも交換をし終え、ホッとして空を見上げると、そこには一面の星空が広がっていた。プラネタリウムよりもはっきりと見えるたくさんの星々に、一筋の天の川。私は一生忘れないだろう。そうして走りだしたのもつかの間だった。またもタイヤがパンクした。今度は一台のみだが、当然替えはない。なんと、仕方がないのでパンクしたまま走り続けたのだ。しばらくして遂に身動きが取れなくなった。そこで、我々は二手に別れた。先にエアーズロックに向かい外部に助けを求める救出組と、砂漠の中のパンクした車に残り助けを待つ待機組だ。

～待機組～

車で待機が決まったその時、すでにみな疲労困憊であった。そんななか、先生はおもむろに今回起きた出来事に関する反省点を整理し始めた。大きく3つに分けると、1）ルートの選択（この道通る必要なかった）、2）スピード（路面状態に対して、スピードを出しすぎた）、3）なにらかの理由でこの路の交通を阻止しようとする悪いやつらがいた。であった。3つ目に関しては反省点とは言い切れないと感じたが、もう少し冷静にしたかった。その後更、日程変更を考慮すべきであったのだ。外では野犬の遠吠えが聞こえるわ、ラクダがいつ車を踏んづけるかわからないわで、一睡もできなかった。朝日が差し込んでいた。他のメンバーが外でボールを投げ合って遊んでいる暢気な連中もいたが、私は寒すぎて体が動かなかった。先生にはこんなに寒くすぎて何も考えることができなかった。はやく、助けにきてくれ。はやく、シャワー浴びたい・・・と10回ぐらい思ったところで、助けに来たレッカー車がやってきた。その車は世界のTOYOTAだった。

今振り返ると世界で仕事をする自信がついた話

内田　優(13年卒)

海外でうまく発表できるかな・・・」

国際石油学会であるSPE(Society of Petroleum Engineers)で発表が決まったときに、不安でしかたありませんでした。学生時代、国内学会等で数回発表したことはありましたが、上手でないことは自分でもわかっていました。しかも、今回は社員としての発表するため会社に失敗できず、できることしかなかなかありませんでした。しかし、ふと、森田先生の言葉を思い出しました。「人はエッジに立つことで成長できる」という言葉です。常に楽な道を進もうとしてきた私にとっては、胸に刺さる言葉でした。もし今回の海外発表で上手に発表できれば、今まで発表に自信がなかった自分を変えられるかもしれないと思えました。そう思ってから、私の奮闘の日々が始まりました。

まずは、どうすればうまく発表できるかを考えました。スライドに関しては、eposerセッションのため発表時間が10~12分でしたので、極力端的にまとめようと思いました。文法・発音等に関しては、外国の方に聞くのが良いと思い、oxyce英会話の講師に尋ねることにしました。実際にスライドを作成したところ、回りくどい表現が多かったため、先生に数回添削をしたところいました。修正されたスライドを使って、英会話の講師に毎日1時間ほど発表を聴いてもらい、文法、発音等を改善しました。練習はしたつもりでしたが、それでも英語での発表は難しく、満足のいかないまま空港へと向かいました。

空港へ着くと、久々に先生と再会し、何だかホッとしました。私が自信をなさそうにしていると、だめそうなら質問は私が答えるとも言ってくださったので、少し安心しました。ただ、先生に頼ってばかりいられないので、機内でもしっかり練習しようと考えていたら、私の座席の近くに森田研B4の女子4人。葛藤の末、黙々と発表練習を行いました。約13時間後ヒューストンに着き、ガルベストンのホテルへ向かいました。森田研究室の学生が楽しんでいる中、私も遊びたくて仕方ありませんでしたが、葛藤の末、ホテルでも発表練習をしました。発表前日、NASAに行く機会がありました。私はホテルで発表練習をしようと思いましたが、先生は「これ以上練習しても気が滅入るだけだ」と言いました。確かに、発表前の私はナーバスになり過ぎていました。葛藤の末、思い切って遊ぶことにしました。久々に遊んだら気持ちが少し楽になりました。本番当日まで先生は私のスライド想以上に発表は上手にできたと思います。

そのおかげで、自分の予海外でうまく発表できた。「今では海外発表を思い出す度に自信がつきます。実際に、会社で何度か発表がありましたが どれも自信を持って発表することができました。将来、海外で働く機会があると思いますが、自信を持って働くことができると思います。素晴らしい機会と、自信をくれた森田先生。感謝してもしきれません。本当にありがとうございました。先生の石油業界に対する思いを受け継ぐことで恩を返したいと思います。

今振り返ると人生の良い経験となった話「東北大震災でのボランティア活動」

谷口　智洋(13年卒)

私は2011年春から森田研で研究を始めました。そのとき私は横浜の実家でちょうどお昼ご飯のコンビニ弁当を食べていました。徐々に大きくなる揺れによって食器棚はガチャガチャと音を立て始め、ただの地震ではないとわかった母は必死にそれを押さえていました。二階にいた黒猫はドタドタと音を立てて階段を必死に駆け降りてきました。そして私は「退路を確保しなければ！」と思い、裸足で玄関の扉を開けに走り

～合流、そして生還～

エアーズロックを見た時の感動はいまでも忘れられない。タイヤがパンクして、さらにパンクして。そういった過酷な環境であっても、乗り越えることができた。タイヤがパンクしたらどうすべきか、成長できたと思う。このような唯一無二の経験ができ、今振り返るととても良い経験だった。

今振り返ると人生の良い経験となった話「バスポートをレストランに置いてきて店のマネージャーが欲と良心の呵責にもだえた話」

村上響子(11年卒)

大学4年時の夏、ニューオリンズで開催されたspe annual conterenceに学生8人+先生で参加しました。学会より1週間ほど早く人アメリカに入り、地質見学、Nasaでのロケット配管接続見学、大学見分等、様々な自然・施設を車で見学しました。オーランドから見学を開始しましたが、夕食は、ホテル近郊のメキシコ料理レストランで皆揃って食べ、無事ホテルに戻り、お風呂に入って寝る時間際、大切なバッグがないことに気づきました。小さな肩掛けバッグにパスポートを入れて行動していたのですが、そのバッグが見つかりません。その日の行動を思い返したところ、レストランでうっかり自分の椅子に掛けてしまった記憶があり、忘れてきてしまったと気づきました。

しかも、不運なことに、パスポートに加えて現金10万円+$600程度)も一緒に入れていました。文無しです。しかし、既に時計は深夜を回っていましたので、勿論レストランは閉まっています。すぐに、同部屋の女友達と一緒に、先生の部屋に行き、随分長いことお何度もドアを叩き、先生の名前を呼びましたが、一切反応はなく、熟睡しているご様子でした。ひとまず、翌朝を待つことに決めれましたが、その日は何事もなかったことにし、眠りました。翌朝先生にすぐ状況を報告し、早速レストランに電話をしてもらいました。翌朝先生に募ります。先生は、マイアミの日本領事館にいかなければならない、どの程度の期間で再発行できるのか、マイアミに私だけ1週間程置き、再発行できず第、日本に帰国すればよい、などと日程を考え直して下さっていました。

しかし、絶対あのレストランに置いてきたのだ、という確信を持っていたため、他の学生はディズニーランドに予定通り送り、その後先生と私は直接、開店前のそのレストランに乗り込みました。忘れ物の話をし、中に入らせてほしいと話しましたが、入れてはくれませんでした。店主はお店の奥に探しに行き、随分長いことお店の外で待たされました。きっと5分程度だったかもしれませんが、不安な気持ちから、10分くらい待たされた様に感じました。見えないところで探されるのは、米国という土地故盗まれてしまうのかもしれない、という疑いから、とても不安な時間でした。漸くして店主は入口に現れ、結果ッグは見つかりました。しかし、ここはアメリカです。中身を確認するまで安心はできませんでした。下手に抵抗すれば命が危ないか、という気持ちもよぎりました。中身を確認すると、なんとパスポートは入っており、現金もバラバラとありました。安心感と共に、米国人に対するイメージがガラッと変わった瞬間でした。一般的に、アメリカではお金が入っていると、パスポートは出てこないそうです。先生は米国人の意外な人間性に感激し店主に$150のボーナスを渡し、感謝の言葉を述べました。しかし、忘れ物を探すにしては、長い時間がかかっていたと思います。きっと、この時間に中身を確認し、忘れ物は見つからなかったことにするか、現金を盗むか等、欲と良心の呵責に苦しんでいたのではないかと思います。その後、ディズニーワールドに向かう車内で再度中身を確認したとき、$200らい少ない気がしたのは、気のせいということにしておきます(笑。

この事件を通じて、米国人の人間性に対する考え、パスポートや現金の持ち歩き方な、大切なことを多く学びました。この旅行から海外に旅行に出かけるときには必ずパスポートのコピーを持ち歩くことにしました。コピーがあれば領事館に駆けつければ1日程度で再発行してくれるからです。

今振り返ると米国人の人間性を深く知った話「バスポートをレストランに置いてきて店のマネージャーが欲と良心の呵責にもだえた話」

村上響子(11年卒)

最終日、友人たちに伝えてほしいと運営側が被害のひどかった女川町に私たちを連れていきました。あまりにひどいその光景を忘れることはできません。3階建てのビルの屋上にはひっくり返った自動車がありました。筆舌に尽くし難い光景でした。

私は自分一人の無力さに苛立ち悲しみました。それでも声を震わせ感謝してくれた人たちに出会えました。被災生活で使っていたランプを作業のため借りていながらなくしてしまった時、私を注意した後 少しずつ学べばいい」と言って肩を抱きしめてくれた地元の人の優しさを忘れません。自然の恐ろしさを教えてくれたこの経験を忘れません。

今振り返ると人生の良い経験となった話

ました。様子を見ようと外に出ると地面が波打っているのが足の裏から伝わってきたのは今でも鮮明に覚えています。数百年に一度ともいわれる大震災に見舞われた日本で、大学生であることに当時の私は不思議と意味を求めていました。また森田先生は学生たちのボランティア費用を負担するなど積極的に支援してくださったこともあり、私はある団体を通して4月15日から5日間石巻でボランティアを行いました。

活動初日、被災地の印象は「色がない」、でした。明るい色がない。津波が家屋を押し流してできた広い道路とヘドロ、そして瓦礫ばかりがありました。その地に立って「ここにいた人たちは無事に逃げられたのだろうか」と胸を締め付けられる思いで店の跡を見ていました。私たちは地元の中学校の校庭に固まったヘドロをひたすら運び、土嚢袋に詰めていきました。川沿いで被害が生たちが一時的も固まっておらず悪臭もひどい。ここでまた中学生たちが一時的にもこれまいるようとふんんな必死に頑張りました。夜は地元の柔道場で雑魚寝しました。一日でかなりの体力を使い、また精神面でもつらかったので真夜中の余震には叫ぶ人もいました。

二日目、次はお寺の床下のヘドロ処理でした。ここに遺体を運ぶために、優先的に掃除してほしいと地元から要請が入りました。女性は仏具の洗浄を主に行い、男性は床下に入り、ヘドロをかき出し続けました。一日では終わらなかったため、三日目も行いました。床下は暗くて通気性が悪く、臭いという過酷な現場でした。黙って作業はできないとまるでお祭りのように男たちは床下からバケツリレーを延々と行いました。途中から早稲田大学のラグビー部が手伝ってくれた時はなんと頼もしいことかと感じました。やはり男はいざというときに使える筋力があった方がいいと弛んだ自分を省みたのをよく覚えています。

今振り返ると人生の良い経験となった話「アメリカで急性食中毒で救急病院へ担ぎこまれた話」

佐藤　大輔(07年卒)

もう十年近く前のこと。当時、大学4年生。学会参加のためにアメリカに来た私は腹痛と高熱で倒れ、オースティンの病院に森田教授の車で運ばれました。具合が酷く悪かったので、緊急患者用の診察室で受診したのですが、これはER(Emergency Room)と呼ばれるシステムだったようです。ERを実際に受診するのは珍しい体験と思います。 誰かの参考になればと、その当時のことを記させて頂きます。

まず驚いたのは待合室での診察順番のこと。そもそもERの待合室入り口は普通の入り口と別で、私が入った時は既に10人以上の患者が長椅子に座って診察を待っていました。診察はかなり時間がかかりそうだな、と思い椅子に腰を据えたのですが、実際には殆ど待つことなく診察を受けました。当時は戸惑いましたが、災害医療時などで有名?な重症者を優先的に診察する。トリアージ、がERでは当たり前なようです。他の患者後から入ってきた一見してあきらか重症な患者が、他の患者を抜いて診察室に呼ばれていましたので、私の具合の悪さも傍目に中々のものだったのでしょう。

実際、とても辛かったのですが面白く覚えていることがあります。それは英語が不自由な私でもコミュニケーションがとれるよう?、絵が描かれたパネルが用意されていたことです。スマイルマークが徐々に笑顔 ― 苦痛へと10段階くらいに描き分けられたパネルをさしだされ、どれくらい辛い?と聞かれました。これは本来、子供向けの対応かもしれませんが、英語が拙くても安心なわけです。

また診療ですが、検査の徹底ぶりが凄かった思い出があります。私は病状を拙く伝えた後、案内室を立て続けに受けました。まず採便で便に血が混ざっていた時点で生きた心地がしなかったのですが、膿瘍としたま採血・CTスキャンなど様々な検査を受けました。1回の診療で徹底的に検査するのはアメリカ医療の傾向かもしれません。診断結果は、腸に細菌が溢れていただけで薬を飲めば治るから、とのことで。一安心?でした。確かに処方された抗生物質を飲んで治ったのです。なんとか学会に参加することができました。

あとはERとは直接関係ないですが、会計で保険の効果に驚きました。私は偶然、日本で海外旅行保険の契約しておりましたので、会計でその証書のコピーを渡したところ、もう帰っていいよと、言われたのです。後で知ったところアメリカのERの医療費は非常に高く、私の診察費用は恐らく数10万円。それ以来、私は海外に行くときは、必ず保険を契約してくことにしています。

今振り返ると人生の良い経験となった話「アメリカで急性食中毒で救急病院へ担ぎこまれた話」

佐藤　大輔(07年卒)

2014年度　実務研修受入企業

1. 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
2. 株式会社ラクーン
3. Summer School in Indonesia
4. 独立行政法人　国立環境研究所
5. 埼玉県環境科学国際センター
6. 東京都庁　下水道局施設管理部環境管理課水質調査係
7. 富士ゼロックス株式会社
8. JX日鉱日石開発株式会社
9. 地熱技術開発株式会社
10. 石油資源開発株式会社
11. 国際石油開発帝石
12. JX日鉱日石金属株式会社
13. エコスタッフ・ジャパン株式会社
14. 株式会社リーテム
15. DOWAホールディングス株式会社

2015年度の教職員の皆様

◎教授
内田悦生
山崎淳司
斎藤　章
香村一夫
栗原正典
大和田秀二
所　千晴
名古屋俊士
大河内博
不破章雄
◎准教授
古井健二
◎助教
資源地球化学研究室
緒方裕子
高谷雄太郎
長尾全寛
◎助手
劉　剛峰
グラナタ・ジュセッペ
◎実験室技術職員
◎連絡事務室職員
◎学科主任および学年担当
学科主任
大学院担任
4年担任
3年担任
2年担任
1年担任

資源地球化学研究室
応用鉱物学研究室
探査工学研究室
地圏環境学研究室
石油工学研究室
資源循環工学研究室
環境資源処理工学研究室
環境安全工学研究室
大気水圏環境化学研究室
素材プロセス工学研究室
岩盤・石油生産工学研究室

大気水圏環境化学研究室
高谷雄太郎
資源地球科学研究室
応用鉱物学研究室

資源循環工学研究室
素材プロセス工学研究室
柏崎　勝
畔上直子

斎藤　章
所　千晴
栗原正典
香村一夫
大和田秀二

す。

と、私の当時の体験は以上になりますが、最後に。森田教授からは専門の勉学は勿論、様々なことを教わりましたが、善く生きるために一番大切なことは、健康であること、と教わったと思います。今回の文章も、誰かの健康を救う一助となれば思いです。拙い文章ですみません、皆様と特に80歳まで働くという森田教授の末永い健康をお祈りし、文を終わらせていただきます。

大学院　地球・環境資源理工学専攻　2014年度修士論文題目

資源科学部門》

◎内田研究室
中尾剛規：タイに産する花崗岩類の研究及び日本・韓国に産する花崗岩との比較
奏　佑輔：超臨界条件下における鉱物－塩化物水溶液間での多元素同時分配実験－磁硫鉄鉱と閃亜鉛鉱を用いて－

◎山崎研究室
松原大悟：Pyrrohoiteの低温水熱合成とVOCsの分解活性評価
平田紘子：塩水浸透性を制御したジオポリマー硬化体の作製と浸透挙動の評価
倉石佳乃：AlおよびNb置換型の細孔質チタノシリケートの結晶化学的性質とイオン交換機能
平松和也：各種層状ケイ酸塩への三価クロムによる結晶化学的物性発現機構に関する研究
山崎克典：4C12NおよびC16TBP／層状ケイ酸複合体の調整と結晶化学的物性評価および熱分解機構解析
黒田隆央：細孔質ジオポリマーの微細構造の生成機構とその制御
井伊淳平：可視光応答型光触媒／アパタイト複合体の製作と吸着・触媒物性評価
宮崎　梓：酸化タングステンを用いた光触媒反応へのメソポーラス構造化および助触媒添加の効果
丸山　拓：アパタイト型ランタンシリケートセラミックスへの(Mn,Λ)置換によるパルク組成および物性の変化

◎雷原研究室
飯塚靖子：溶液から酸化物微粒子生成挙動における炭素繊維添加物効果の検討
河本有真：レゾルシノール－ホルムアルデヒド樹脂－シリカ界面活性剤複合体　コアーシェル粒子の中空粒子への転換
佐藤文香：有機修飾層状鉱物へのベリレンの固定とその発光挙動
見野越洋行：層状チタン酸塩と銀微粒子の複合化による可視光駆動型光触媒の合成

《地殻情報工学部門》

◎香村研究室
橋本真樹：湖沼の底質を用いた東アジア地域における越境大気汚染履歴に関する研究
手島洋紀：熊本県人吉盆地に分布する火山灰土壌の鉱物科学的検討とそれらの有する重金属吸着の評価
田中　新：関東地方に降下したセシウムの土壌内挙動と土壌への吸着に関する研究
高田康平：逐次抽出法を用いた最終処分場埋立層内における金属類の賦存形態とその変化の検討
伊藤貴宏：比抵抗法を用いた廃棄物埋立層内の水分挙動の解明とその適用法に関する研究

◎斎藤研究室
浅野泰寛：改訂設地型音源とVSCSシステムを用いた反射法地震探査の海底熱水鉱床への適用
高橋直人：フィードバック回路を用いた広ダイナミックレンジMI磁力計の開発
陶　芙：カナダオイルサンドフィールドにおける時間領域電磁探査法の適用可能性に関する研究

《開発環境工学部門》

◎森田研究室
友澤洸樹：坑井周辺初期ブレイクアウトに関する実験及びシミュレーション解析
池田拓矢：境界要素法による漸進破壊を伴うブレイクアウト解析
沈容てい：孔隙連続体に関するビオ理論を用いた流体と岩盤力学の有限要素法連成解析
村　美樹：有限要素法による岩盤力学と貯留層流れの連成解析
高居勇佑：最大水平地圧に直交するき裂開口・進展データを用いた破壊靭性の解析
吉村浩一：シェールガス・オイル開発におけるPGAのスリック流体への応用

◎栗原研究室
鳴金世耶：メタンハイドレード分解・生産挙動予測シミュレーションへの岩石力学挙動予測機能の導入
二瓶正太郎：数値シミュレーションによる各種EORの新適用基準の提唱
夏　玲丹：地質統計モデルの作成とスケールの異なるソフトデータの利用による地質統計モデルの精度向上
布施　彗：Todd-Longstaffおよび動的局所細分計算機能を付加したブラックオイル型シミュレーションによるガズ・ミンブル攻法の挙動予測計算速度の向上

《資源循環工学部門》

◎大和田研究室
梅澤秀彰：廃PCサーバからの基板脱離および基板からの部品剥離を目的とした二段粉砕プロセスの検討
小川寛人：粉砕・物理選別による廃電子機器からの金属類濃縮挙動および廃PCサーバからの基板脱離挙動
耿　洋：浮選確率論から見たマイクロバブル浮選に及ぼす超音波照射の影響
篠井　希：浮選分離の立場から見た使用済み携帯電話用リチウムイオン二次電池からの正極材濃縮フローの検討
波多野孝亮：LIBSのソーティングへの適用可能性検討
鈴木　涼：電気パルス粉砕と静電選別によりCFRPからの炭素繊維回収の検討

◎所研究室
岡田慎太郎：表面粉砕による使用済み濾過砂からのMn除去の検討
榊原泰佑：水酸化アルミニウムへの表面錯体形成を考慮した酸性坑廃水処理の定量モデル
鈴木慎哉：希薄Cr(VI)廃水の水酸化アルミニウム共沈処理の機構解明および新規定量モデルの提案
戸井龍太郎：物理選別による銅精錬スラグからの有用金属の回収に対する最適冷却条件の検討
藤橋大輝：液架橋力を考慮したDEMシミュレーションによるパン型ペレタイザにおける湿潤粒子の挙動解析
二見文也：Re(目)を担持させたイオン交換樹脂によるAs(V)含有廃水の処理に関する検討

《素材プロセス工学部門》

◎木破研究室
水野耕作：硫酸溶液中の黄銅鉱浸出における不働態化現象のXPSによる表面解析
高橋達郎：改良EMF法によるLa0.3Sr0.7CoXM1-XO(M=Fe,Ni)系SOFCカソード電極の特性評価ならびに表面反応解析
四塩化シリコンのクリーン・コンバージョン反応シミュレーション解析
佐藤　駿：アンモニア塩基性電解浴を用いたCu2ZnSnSe4薄膜の電析作成

《環境安全工学部門》

◎名古屋研究室
大貫正史：金属酸化物触媒を用いた有機溶剤等の分解に関する研究
柏柳太郎：ファイバーモニターFI-X型を用いたリフラクトリーセラミックファイバーの濃度管理に関する研究
福留悠斗：シリカゲル光触媒を用いた有機溶剤分解装置の開発に関する研究
皆川雄典：ナノマテリアル等に対するバクフィルターの捕集効率

◎大河内研究室
青木竜馬：丹沢山塊における渓流水質の実態と森林生態系の健全評価
朝井大介：都市型豪雨の実態と都市温暖化が大気汚染物質の湿性沈着量に与える影響
小川　新：富士山体を利用した自由対流圏における雲水科学特性と越境大気汚染の影響評価
黒島碩人：福島県浪江町の里山に大気沈着した放射線セシウムの森林内分布と挙動
山本修司：人為および生物起源揮発性有機化合物の大気動態と降水洗浄
山之越恵理：大気中フミン様物質の動態と起源解析

《岩石学部門》

◎小笠原研究室
斎藤　陵：米国Wyoming州South Pass地域の太古代グリーンストーンの重複変成作用－Louis Lakeパソリスの熱的影響

◎フェイガン研究室
荒金陽樹：Secondary minerals in three CAIs: Implications for element mobility during metamorphism of CV parent body asteroid.
下田　篤：Apatite in NWA773 and Apollo 15405: Implications for the role of water during igneous crystallization on the Moon

《地質学部門》

◎高木研究室
飯塚亮太：統合的放射年代測定を用いた三波川変成岩類の上昇プロセスの検討

◎太田研究室
中山　歩：石英のカソードルミネッセンス特性による源岩の判別方法の提示
鶴田　統：EF-PCA法の粒子形状解析の平易化と拡張のアプリケーション開発
生野賢司：異常巻きアンモナイトPolypychocerasの形態解析：種分類の再検討に向けて
長原　統：成長曲線モデルと安定同位体比分析による後期白亜紀二枚貝イノセラムス類の殻の弾帯受にみられた成長輪の解析
板野慎一：北海道大夕張地域白亜系Cenomanian/Turonian境界付近におけるアンモナイト類の多様性変動解析
細野貴裕：北海道三笠－芦別地域上部白亜系蝦夷層群における軟体動物化石の多様性変動解析～OAE2の影響や原因解明に向けて～
間杉友亮：炭素安定同位体比の分析法検討～北海道上部白亜系蝦夷層群を例として～
工藤直樹：炭素安定同位体比を用いた北海道根室層群川流布層の白亜系／古第三系境界のhiatusの評価

◎環境資源工学科　博士論文題目
2014年10月　劉　剛鋒：加熱・急冷および選択粉砕による自動車排気ガス浄化触媒からの白金族元素濃縮（主査：大和田秀二）
2014年2月　杉浦悠紀：生体適合性イオンおよび官能基が生体鉱物の形成ダイナミクスおよび結晶構造に与える影響（主査：山崎淳司）
2015年2月　宗宮　穣：光誘起事象の最適化に向けたメゾポーラスシリカと層状ケイ塩酸の低次元ナノ空間への機能ユニットの空間分布を制御した固定化（主査：菅原義之）

環境資源工学科2014年度日誌

3月29日　新入生ガイダンス　環境資源工学科入学者：82名（女子：17名）（一般：42名／学院：4名／本庄：2名／早実：5名／早高：1名／指定校24名／外国：4名）
4月5日　前期授業開始
5月31日　環境資源工学会総会（於：馬車道）
6月5日　大学院修士課程推薦入試（面接）合格者：48名（女子：6名）
6月7日　理工スポーツ大会（於：河口湖）
6月7日～8日　新入生オリエンテーション（於：軽井沢セミナーハウス）
7月13日　大学院修士課程一般入試（筆記試験）
7月19日　大学院修士課程一般入試（面接）合格者：15名（女子：1名）
8月1日　前期授業終了
8月2日、3日　オープンキャンパス
8月4日　ユニラブ
9月19日　帰国生入試合格者：0名（志願者：0名）
9月25日　外国学生入試（面接）合格者：1名（女子：1名）
環境資源工学会奨学金、吉澤奨学金授与式（環境資源工学会奨学金／学部4年生：藤井雄大、北村稔）（吉澤奨学金／修士1年生：深尾加奈子）
9月25日　後期授業開始
10月18日　実務研修報告会
11月1日～2日　理工展
11月1日　ペアレンツデイ（2年）
11月22日　指定校推薦入試（面接）合格者：28名（女子：11名）
特別選抜入試（面接）合格者：2名（女子：0名）
12月6日　研究室配属説明（3年生）
12月13日　研究室配属発表（3年生）
1月28日　卒業論文提出締切
1月30日　修士論文提出締切
2月2日、3日　卒業論文発表会
2月4日　後期授業終了
2月6日、7日　修士論文発表会
2月16日　創造理工学部入学試験
3月26日　卒業・修了式（学部：68名／修士：71名）

2014年度就職・進路

●学部卒業　67名【就職22名】
◎石油・エネルギー：JX日鉱日石エネルギー（1）**◎電力ガス・水道**：中部電力（1）**◎非鉄金属**：三井金属資源開発（1）**◎プラントエンジ・アリング**：新菱冷熱工業（2）**◎建設・建築・建材**：積水ハウス（1）**◎機械・精密機器**：協栄プリント技研（1）**◎電機機器**：華為技术有限公司（1）、横河電機（1）**◎商社**：コスモ商事（1）、住友商事（1）**◎金融・保険**：静岡銀行（1）、大同生命保険（2）、三菱東京UFJ銀行（1）、三菱UFJモルガン・スタンレー証券（1）**◎情報処理・通信**：東京海上日動システムズ（1）、フィーチャーアーキテクト（1）**◎運輸・交通**：東日本旅客鉄道（1）**◎マスコミ**：NHKビジネスクリエイト（1）、ディレクターズ東京（1）**◎教育**：東京農業大学第一高等学校・中等部（1）

【大学院進学44名　未定1名】◎大学院進学：早稲田大学地球・環境資源理工学専攻（40）、東京大学（2）、留学（1）、科目履修生（1）

●修士課程修了　71名【就職66名】
◎石油・エネルギー：出光興産（1）、エルエヌジージャパン（1）、国際石油開発帝石（3）、コスモ石油（1）、シュルンベルジュ（1）、石油資源開発（1）、日本海洋掘削（1）、三井石油開発（1）**◎電力・ガス・水道**：JX&OHナジーグループ（1）、大阪ガス（2）、関西電力（1）、東京ガス（1）、東京電力（1）、北海道ガス（1）**◎非鉄金属**：JX日鉱日石金属（1）、太平洋セメント（2）、三菱マテリアル（1）**◎建設・建築・建材**：国際航業（1）、応用地質（3）、日本工営（1）**◎機械・精密機器**：オルガノ（1）、小松製作所（1）、スズキ（1）**◎電機機器**：東芝（1）、東亜ディーケーケー（1）、ルビコン（1）**◎化学・食品・製薬**：味の素ゼネラルフーツ（1）**◎商社**：丸紅（1）**◎コンサルタント**：アクセンチュア（1）、大和総研（1）**◎金融・保険**：りそなホールディングス（1）**◎情報処理・通信**：KDDI（1）、応用リソースマネージメント（1）、NTTデータ（2）、UBIC（1）、メック情報システム（1）**◎運輸・交通**：日立物流（1）、東京地下鉄（1）、日本航空（1）**◎人材派遣業**：パソナ（1）**◎官公庁等**：気象庁（1）、地方公務員共済組合連合会（1）、東京都（3）、宇宙航空研究開発機構（1）、石油天然ガス金属鉱物資源機構（2）

【進学（1名）：博士課程、未定4名】
◎博士課程進学：横浜国立大学環境情報学府（1）

お知らせ

ホームページ：http://www.wr-shigen.sakura.ne.jp/
住所変更届、過去の会報の閲覧などができます。
Facebook　早大環境資源工学会
https://www.facebook.com/groups/513923595561230 /
FB上で、情報交換ができます。OBOG限定です。